

札幌市ソーシャルビジネス事業力強化支援事業 対象者

フリガナ 企業・商号・組織 名称	シュールボックス シュールボックス
フリガナ 代表者氏名 (個人事業主氏名)	サワムラ タカオ 澤村 貴雄
所在地	〒 003-0814 電話 090-9430-4499 札幌市白石区菊水上町4条3丁目51-1 ルミエール菊水上町F号室
業種	ソフトウェア開発
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・オーダーでのソフトウェア開発 ・Office365 等での社内システム構築 ・ICTに関するコンサルタント (ICT…Information and Communication Technology) ・Web サイトの作成 ・コンピュータの教育・セミナー開催 ・その他コンピュータに関する業務全般

セールスポイント

【事業により解決を目指す社会・地域的課題の内容、その理由など】

- ・ 現在、障がいを持っている若年層（高等養護学校卒程度）は、学ぶ場が少ないのが現状です。障がいがあるがために、頭脳明晰で IT 技術者としては健常者と変わらない能力を発揮できる人材が埋もれています。厚生労働省の職業訓練でも IT 分野としては存在しますが、20～30 人程度の定員かつ、通学が困難な場合（所在地（テクノパーク等）及びトイレ等の設備）があります。就労支援施設も、指導者がいないために、IT 技術者を養成できるレベルの場はほとんどありません。障がい者が働く場も少ない（障がい者の実雇用率は 1.65% 厚生労働省 2011 年度）状況です。現在の就労支援の仕組みでは、経済的自立が可能なレベルでの内容とは言えません。
- ・ そこで、私の本業であるソフトウェア開発の分野で働ける IT 技術者になるための勉強の場を作る事を考えました。ソフトウェア開発は、全くの無学では行えないため、技術の勉強をしてからの就業が必要です。
- ・ しかし、障がい者が IT 技術者になるために勉強する場はほとんどありません。IT 技術者養成教室で学んだ後の就職先として、シュールボックス自身での採用も考えており、今後の開発案件として、障がい者に役立つハードウェア・ソフトウェアの開発を行いたいと考えています。その際に、開発者が障がい者であることによって、健常者では気付かない点などを考慮したモノを作っていきます。
- ・ 障がい武器になり、経済的に自立できる場所を作りたいと考えています。

【社会的ミッションの達成に向けて、想定している事業の「内容」や「仕組み」など】

- ・半年サイクルのカリキュラムで、IT 技術者を養成するネット配信型の教室を開設し、全国の方に学んでいただきたいと思います。また、通学可能な生徒であればインターンシップ制度にて、シュールボックスが仕事場を提供し、有給労働も行います。学費については半年で30万円程度を想定しており、強い意志を持って勉強していただける方を募集します。
- ・この教室では定期での卒業と言う概念がありません。IT 技術者として働けるレベルと判断した時点で、就職して行く事となります。
- ・1つの単位を半年で構成し、1年や1年半で就職して行く事も可能な形を取ります。1単位の内容は生徒と一緒に協議した上での選択式として、生徒の長所を伸ばす形を取っていきます。

- ・例としてカリキュラム A.~D.があったとします。

A.コンピュータ概論

B.スマホアプリ

C.3D データ技術

D.ウェブサービス

就学から就職までのモデルとしては、ある生徒は A+B+D を学び1年半で就職、また、ある生徒は A+C を学び1年で就職となります。開設初期は1クール30人程度を生徒として受け入れる想定です。

- ・対象となる障がいの種類は限定する予定はありません。正式な障がいの名称や等級からでは判断できない事が多いからです。ただし、希望者との一般的な面談は全員行い、確認をさせていただく事項はあると思います。
- ・人間は誰しもが長所・短所があります。健常者は全ての事が出来る訳ではありません。すべての人間が出来ない事は、他の方に助けてもらって生きているのです。ただ一つだけ必要なことは、IT 技術者になって働いていくと言う気持ちです。

【事業の将来ビジョンや目指している姿、札幌のまちや社会をどのように変えていきたいか、など】

- ・現状の障がい者の働く場はかなり限られおり、更に所得が低めになっています。しかし、それ以前の学ぶ場が圧倒的に不足していると感じています。学ぶ場がもっとあれば、本来プログラミング能力に長けている人材が、自身の能力を発揮する事が出来ると思います。
- ・そこで、「パソコン教室」レベルではなく、コンピュータのプロとして、健常者と遜色のない収入を得て、自立していけるような人材を育てていきたいと考え、今回のプロジェクトを実行しようと考えました。障がい者が自身の能力をもっと発揮できる世の中への第一歩として活動を始めたいと思います。
- ・プログラム能力を身に着けることが出来たならば、障がい者の当事者として、過去に困ったことを解決できるソフトウェアやスマートフォンアプリを作成する事が出来るようになります。これは、健常者では気付かない事も多く、つまりは健常者以上に価値のある人材になれるということです。このように、障がいをマイナスではなくプラスに転換する事がIT分野では可能なのです。これが実現できると、収入面も含め、本当の「自立」ができると考えています。
- ・この事業は全国初であり、札幌発で全国に展開できると考えています。